

## 昭和の南海地震体験談

氏 名:濱中 和雄(はまなか かずお)

生年月日:昭和9年10月21日

地震を体験した場所:田辺市

当時の家族状況:母、兄、姉、弟、妹子供9人、計10人



### 1) 地震発生時の状況

当時 13 歳、家の二階で兄弟姉妹 8 人寝ていた。

父は、勝浦に商用で行っていて、長期留守だった。飛び起きて毛布を被って、鉄道線路まで逃げた。一階で赤子と寝ていた母は、生後45日の赤子を抱えて同じ所に避難。

外に出た時に海鉄砲の音を聞く。15分ほどして、寒いからと家の前まで戻るが、入り口に差し掛かったとき、近所の小父さんの「津波や！」と言う声で慌てて線路に駆け戻る。その時“ザーザー”と言う波の音を聞く。

### 2) 津波襲来時の状況

二度目、線路に上がった時、波の音を聞く。〈地震＝津波連想〉は無かったが、何故か線路からまだ上の、30mも高いところまで逃げた。

### 3) 家族の行動・被害

家族全員、同じ場所に避難して無事

### 4) 集落・周囲の被害

近所の19歳の女性溺死、同じく23歳の男性も溺死、同じく、48歳の女性も溺死、この三人に共通するのは、逃げ遅れ。一旦、逃げていたのに、荷物を取りに戻った。

小さい子供も二人死亡、親が濁流の中、堪らず手を離してしまった。同地区では7人死亡。

家屋のほとんどは天井下まで浸水、数軒は基礎石、残して流出。浸水した家は、味噌糞一緒に、泥まみれだった。

自宅も同様で、この2月にリフォームするが、そのまま使っていたので、潮の線が、鴨居の上にある。

### 5) 地震・津波後の生活

天井下20cmぐらいまで浸水したが、昭和18年に新築した家で、壊れなかった。

小さい子供達は母方の実家に預けられ、大きい子供は片付けに回った。私は、大きかったの

で、片付けに回った。

家で飼っていた兎や、鶏が、津波後戻ると、壊れた鶏舎から出て、家の中や裏庭の木にぴょんぴょん跳んでいたこと覚えている。

兄と一緒に、井戸の汚れた水を、随分と、かすったことも忘れられない。

#### 6) 次の災害への備え

妻には「金など貴重品は袋に入れて」と言っているが、海や海岸線、堤防など当時と、随分と形が変わったので、大きな津波が来ても、南海道地震の時のようになるのか、疑問だ。

当時、逃げなかった人が助かっているの、今度来たらどうするか、考えている。



←この線が分かりますでしょうか？